

3 シンポジウム

(1) 参加各市紹介【調布市】

(福生市 加藤市長)

昨年「ゲゲゲの女房」で大変街を売りまして、今素晴らしい功績を上げたとして、市民から伺っております、長友市長、よろしく申し上げます。

(調布市 長友市長)

調布市長の長友でございます。よろしく申し上げます。

調布市でございますけれども、「東日本大震災に関する対応状況 調布市」というのが、皆様のお手元にあると思います。これを調布のあらましを申し上げる間に出しておいていただきたいと思っております。主にこれで説明して行きたいと考えております。

調布市は昭和30年4月1日に市制を施行して、現在56年が経過しているところでございます。人口は市制施行時4万5千人が、現在22万2千人ということで、十数万人増えたなあというところでございますが、今街の大改造を行っておりまして、調布市内に京王線の駅が9つある訳ですが、調布駅を含めて3駅が地下化になると、3.7キロメートルの地下化の工事が鋭意進んで、来年度いよいよ完成となってまいりました。そこでまた、街の様相が一変する訳ですが、目指せ吉祥寺ということで我々も頑張っていかなければいけない。

メインになる調布駅、地下化でございますから、駅前広場が3つできるということですが、調布駅の駅前広場はなんと、新宿西口と同じ広さで、夢は広がってきている訳でございます。

不況下で経済的になかなか困難を極める日本の中にあって、大変ツキに恵まれていることはその通りでございます、昨年の「ゲゲゲの女房」半年間我が調布、水木しげる先生のおかげで、名前を明るい形でアピールさせていただいたことは、非常に僥倖にあずかったと思っております。今日、たまたまここに入ってこようとしたら、「ゲゲゲの女房」の舞台のポスターが貼ってありまして、あれはうちのためにわざわざ貼っていただいたんだなあ、誠に感謝に絶えない次第でございます。

あと一つだけ宣伝をしますと、昭和30年に市が出来上がってから56年間で初めて十両以上のお相撲さん、関取が誕生いたしました。名古屋の7月場所で十両に入る前、幕下の五枚目で「皇風（きみかぜ）」、直江という本名で通っていたのですが、見事に7戦全勝で優勝しまして、西の八枚目で十両に上がっ

ております。昨日まで6勝6敗という非常に微妙な星勘定になっているので、何とか勝ち越してもらいたいということで、急遽、後援会を作って頑張っているというところがございます。

街のことを話していると、これ以上時間がございませんので、これぐらいにさせていただきます。先ほど申し上げた「東日本大震災に関する対応状況」の中から、加藤市長の御説明で、共通項でどの市も取り組んでいるところは割愛いたします。我が市の特徴的な事を2・3、皆様方に御紹介をしたいと思います。

6ページ目を開いていただきまして、そこに味の素スタジアムで受け入れた、福島県を中心とした人たちのことが数的に表わされている訳ですが、4月の頭に最大時、3月の終わりから4月の頭にかけて、200名近く受け入れをさせていただきました。これは東京都の事業で行ったのですが、我が市の中にあるので、市としても社会福祉協議会とともに全面的にバックアップをさせていただきました。次の7ページを見ていただきますと、これぐらいの本当に心温かい、自治会や青年会議所など、様々な組織がこんなにお手伝いいただきました。それから、その方たちを含めて、民間住宅に対する避難者の受入れは8ページに書いてあるとおりで、これぐらいのところで受け入れたということがございます。

10ページ、調布市災害支援ボランティアセンターの設置と書いてあります。これが今度の副産物としては、大変ありがたい財産をいただいたということがございます。11ページの下の方に数が書いてありますが、何と5月の終わりに、この味の素スタジアムを手伝ってくれませんかとしたところ、3千人近い方に手を挙げていただきました。全員が市民とは限りませんが、主に調布市民3千人ですよ。この方たちが毎日やって来ても、そんなには人手が足りない訳ですが、何かを手伝いたいということで、これをリストアップさせていただいて、この後も色々とお手伝いしていただいております。

これをやったのは市ではありません。社会福祉協議会及び市民ボランティアが、ホームページを立ち上げて募ったということでもありますから、この自主自立的な営みに関して、本当に心から感謝申し上げるとともに、ありがたい遺産をいただいたと。これを有効にこれからも活かして行きたいと考えております。

それから、現地の職員の派遣等でございますが、これはどの市もやっておられるのですが、13ページを開けていただいて、岩手県遠野市と書いてあります。私も武蔵野市と違って、遠野市と前から縁があった訳ではないんです。これは4月の半ばに、2月に決めたんですが、私が水木さんの御縁で岩手県遠野市が民話信仰で活発にやっておられる、水木さんが熱心に昔から通っておられたということで、産業の手助け、文化振興で打合せに行く予定にしていたんです。そしたらこの地震が起こって、出張は延期にしましたけれども、遠野市

が海岸沿いの被災地の後方支援にあたっているということがマスコミで喧伝されましたので、本田市長と御相談の上、4月の頭から我々も市の職員を何次にも亘って派遣させていただいているというのが特徴的でございます。

それから、この今見ていただいているものは、28ページまであるのを御確認いただいた後に、1枚めくっていただいて通し番号がないのが恐縮ですが、「岩手県遠野市復興支援バスツアー」、これは市民を募って、そこで御縁の出来た遠野市に、これからも我々は力強く御支援を続けさせていただきますという市民ボランティアを募っています。第1陣がこれを見ても分かる通り、正に今行っているんです。台風でちょっと大変な目に遭っているようですが、これを第7次まで募集して、市の職員と社会福祉協議会の人たちにも付いて行ってもらって、市民の支援をつなげていこうと思っております。

もう時間がなくなってまいりましたので、あと一つ二つ。放射線の測定は、他の自治体に比べていち早く取り組みました。これは私は、市民がやりだすだろうから後追いは出来ないということで、地表、プール、食品、これは武蔵野市さんにも色々教えていただきながらやっております。

今後の支援のあり方なのですが、私も7月の頭によやく時間が取れたので、3日程東北に行って、遠野から、後は岩手から福島まで車で南下をいたしました。大変な状況で、詳しくは申し上げません。釜石の市長の野田さんとお話をした時に、非常に強烈に思いました。街はもう再建できないのではないかというようなことをお考えなんだなあということが言葉で伝わってまいりました。はっきりは言われませんでした。

ですから、私どもは、例えば物産展もいいですが、端的に言えば、50万、100万のお金では焼け石に水です。やることはいいことだと思います。我々が取り組むべきは、長期に亘って産業が復興するための御支援を、この4千万人が住んでいる首都圏が力強く支援をして行くことだと思います。それを1市でやったんでは力不足、東京都の市長会の中でも声を出して、産業を立ち上げるための長期に亘る支援が何ができるのか、これが要諦ではないかと思っております。

以上です。ありがとうございました。

(福生市 加藤市長)

スケールの大変大きなお話となりました。やはり、味の素スタジアムというのが、様々な形で貢献されているのがわかりました。ありがとうございました。